

「気象庁防災情報 XML フォーマット」の辞書等の変更に伴う XML スキーマの修正とサンプル電文の修正・追加提供について

現在公開している「気象庁防災情報 XML フォーマット」(Ver. 1.0) の修正の概要について平成 21 年 12 月 8 日付『「気象庁防災情報 XML フォーマット」の誤りの修正等に伴う辞書等の変更について』にてお知らせしているところですが、この中で予告しました XML スキーマの修正とサンプル電文の修正・追加について、準備が整いましたので提供いたします。提供資料の概要は以下のとおりです。

1 XML スキーマの修正点について

(1) スキーマ本体

- XML スキーマ “jmx_eb.xsd” において、“<xs:complexType name=“type.Comparison”>”の“<xs:extension>”の属性“base”の値について、“xs:float”から“jmx_eb:nullablefloat”に変更。
- XML スキーマ “jmx_eb.xsd” において、“<xs:complexType name=“type.SolarZenithAngle”>”の“<xs:extension>”の属性“base”の値について、“xs:string”から“xs:float”に変更。
- XML スキーマ “jmx_eb.xsd” において、“<xs:complexType name=“type.UvIndex”>”の“<xs:extension>”の属性“base”の値について、“xs:string”から“jmx_eb:nullablefloat”に変更。
- XML スキーマ “jmx_mete.xsd” において、“<xs:complexType name=“type.EventDatePart”>”の“<xs:element>”の属性“name”の値が“Date” “Normal” “LastYear” の 3 要素について、同要素 “<xs:element>” の属性 “minOccurs” の値を “1” から “0” に変更。

(2) バージョンについて

今回の修正に際して、スキーマのバージョン管理上はマイナーバージョン変更と同じ位置づけとし、具体的には以下のとおりの対応いたします。

- 今回の修正により、全スキーマのバージョンを “1.0a” に変更します。
- 名前空間の変更は行いません。
- XML スキーマ上ではルート要素の注釈 (“<xs:annotation><xs:documentation>” 以下) において、バージョン情報の提供をするのみとします。
- XML インスタンス上では今回の対応に伴うバージョン情報の変更はありません。

なお、運用開始後のバージョン変更において、XML 辞書や運用の変更の際には、XML インスタンス上の運用バージョン (“<jmx_ib:InfoKindVersion>”) との対応を別途提示いたします。

2 サンプル電文の修正・追加提供

今回は、辞書等の変更に伴うサンプル電文の修正（サンプル電文の差し替え）と、新たにサンプル電文の追加提供を行います。なお、サンプル電文の提供に際しては、差し替え対象のサンプル電文か、追加のサンプル電文であるかを明確化するため、これまでの提供分も含めて一式で提供いたします。

提供するサンプルファイルの一覧を別添のサンプル整理表にまとめております。また、前回提供したものと同一ファイルについては、「5/15 提供」列に“○”印にて示しております。

このため、5月15日付で提供したサンプル電文については、一旦破棄の上、今回提供のものに置き換えて利用していただきたくことを推奨します。また、前回提供のうち今回差し替え対象でないサンプル電文については一切修正等を行っておりません。

3 XML スキーマとサンプル電文の検証について

今回の修正・追加提供に際して、XML コンソーシアムのご協力により、検証作業を実施致しました。詳細については、別添の検証結果をご覧ください。